

「身の程知らず」かも

札幌市医師会
新札幌パウロ病院

たかしな としみつ
高階 俊光

同じ歳の友人3人と一緒に電車に乗った時です。2人の子供連れの奥さんから私だけ席を譲られました。その時辺りを見渡したのですが、やはり私なのです。驚きました。一瞬どうしようかと躊躇していたのですが、その人の好意を断るのも失礼ですから、少々タイムラグがあってからお礼を言って座らせていただきました。その間友人たちはニヤニヤして素知らぬ顔をしていました。そして電車を降りた途端に友人たちが口をそろえて席を譲られて断るといことは「身の程知らず」だから座ってよかったよ、と言われました。この「身の程知らず」という言葉に自分はそんなに老けて見えるのか、と頭をおもいきり殴られたようなショックを受けました。

私にとって席を譲られたことは「おじいさんです」とレッテルを貼られたと同じで、年寄りに見えることを自覚する絶好の機会になってしまいました。その時私は57歳でした。

私は地下鉄通勤ですが、その事件後から席を譲られる場面に私の興味を引くことになりました。譲られた女性が断るのを見たことはありません。断る場合には「ありがとうございます」と言って、「次の駅で降りますから」と相手の好意を受け止めてから断っています。それに比べて男性が断るときは「いいです」とつうげんどんに断る人を見かけます。

席を譲る人は客観的に相手が十分にご老人に見えるから譲るのだと思います。ただのお年寄りには簡単に席を譲ったりしません。また譲るには勇気が必要です。断られればその勇気が踏みにじられ、引っ込みがつかない気持ちになることもあります。特に若い人が断られると、折角譲ったのに悪いことをしたような、バツの悪い気分になります。私も学生時代にバスの中で赤ちゃんをおんぶしている女性に席を譲ったのですが、きつい言い方で断られて以来、「赤ちゃんをおんぶしているお母さん」に席を譲るのを躊躇してしまいます。最近杖を突いている人にも断られました。

男性に「身の程知らず」の人が多く見られ、女性の多くの人は身の程をよく知っているということもあり、譲ってもらってシメシメと思っている節もうかがえます。しかしながら私はこの男女の相違の一つに女性の更年期が大きく関係しているのではと推測しました。女性は更年期を境に不定愁訴などで体調の変化が大きくなります。女性の更年期の年齢(平均年齢51歳)では男女ともに席を譲られることはな

いと思いますが、女性は体調の変化を強く自覚します。この体調の変化が席を譲られることに抵抗を感じなくなっている一因かと思います。

譲られて憤慨している老人がいる一方で、座りたくてズルをする人もいます。ある新聞記事で電車内にみられる高齢者の席取りについて、宮城県内のJR東北本線で老人クラブ連合会の会員が電車内の空席に「席をお譲りください、次の駅から敬老者が16名乗車します」と書いた紙を置いて席取りをしていました。これに対し「善意を強制するのはマナー違反」「最近の老人は非常識すぎる」「席取りを見たら、譲る気がなくなる」などの非難が殺到し、後になって同連合会は「不適切の行為だった」と謝罪する事態となりました(読売新聞2018 [H30] 7. 8:「日曜の朝に」席取り合戦 解決の切り札)。

こういう記事を見ると、席を譲られても頑なに断る人は「身の程知らず」と思うと同時に私は「可愛い」とさえ思えてくるのです。譲る側の人もつうげんどんな男性の態度を可愛いと解釈すれば、断られても不快感もなく引っ込みがつかなくなることもありませぬ。その「ご老人」のプライドも傷つけなくて済み、断るいかつい顔も失礼ながら滑稽に見えてくると思います。そして断られても簡単に「ああそう!」と思えば、「勇気を出して・・・」と大げさでなくなります。また優しく断る男性の中には健康状態が低下してくるフレイルの予防で、頑張っ立っている人もいるようで、この場合優しくそのことを言われれば勇気が踏みにじられた気持ちもなく、気が楽になります。

以前に女房から体調が悪くて優先席に座ることがある時には「帽子をとって白髪頭の老人だと周囲にアピールするといいいんじゃない」と言われたことがありました。ところが最近外来で若い女性から年齢を聞かれ100歳ですと答えたところ「ウソでしょ」と言われ、実は90歳ですと言いつつ直したらと、まだ60歳台なのに「随分とお若く見えますね」と感心されてガッカリしました。今は私の身長が若いころより5cmも縮むほど老いてしまい、おまけに腰痛で腰をかがめて歩くようになり、周囲に帽子を取ってアピールする必要性もなくなってきました。

私の席を譲ってもらったエピソードを「ふんふん」と楽しそうに聞いていた妻も、先日中学生くらいのお嬢さんからJRの車内で席を譲られ、大きなショックを受けていました。まだ「67歳なのに・・・」と言っていました。私は心の中で妻に叫びました。「身の程知らず!!」。